

2023年度第3回公開シンポジウム

王崧興『亀山島』と漢人社会研究


Picture by 亀山島社區

主催：南山大学人類学研究所 共催：東アジア人類学研究会

◆日時：2023年12月26日（火）10:00～12:45

◆会場：南山大学G棟G27教室  ☎466-8673 名古屋市昭和区山里町18

◆プログラム：
10:00 開会の辞 渡部 森哉（南山大学人類学研究所）

 名古屋市営地下鉄
名城線 八事日赤駅
鶴舞線 いりなか駅

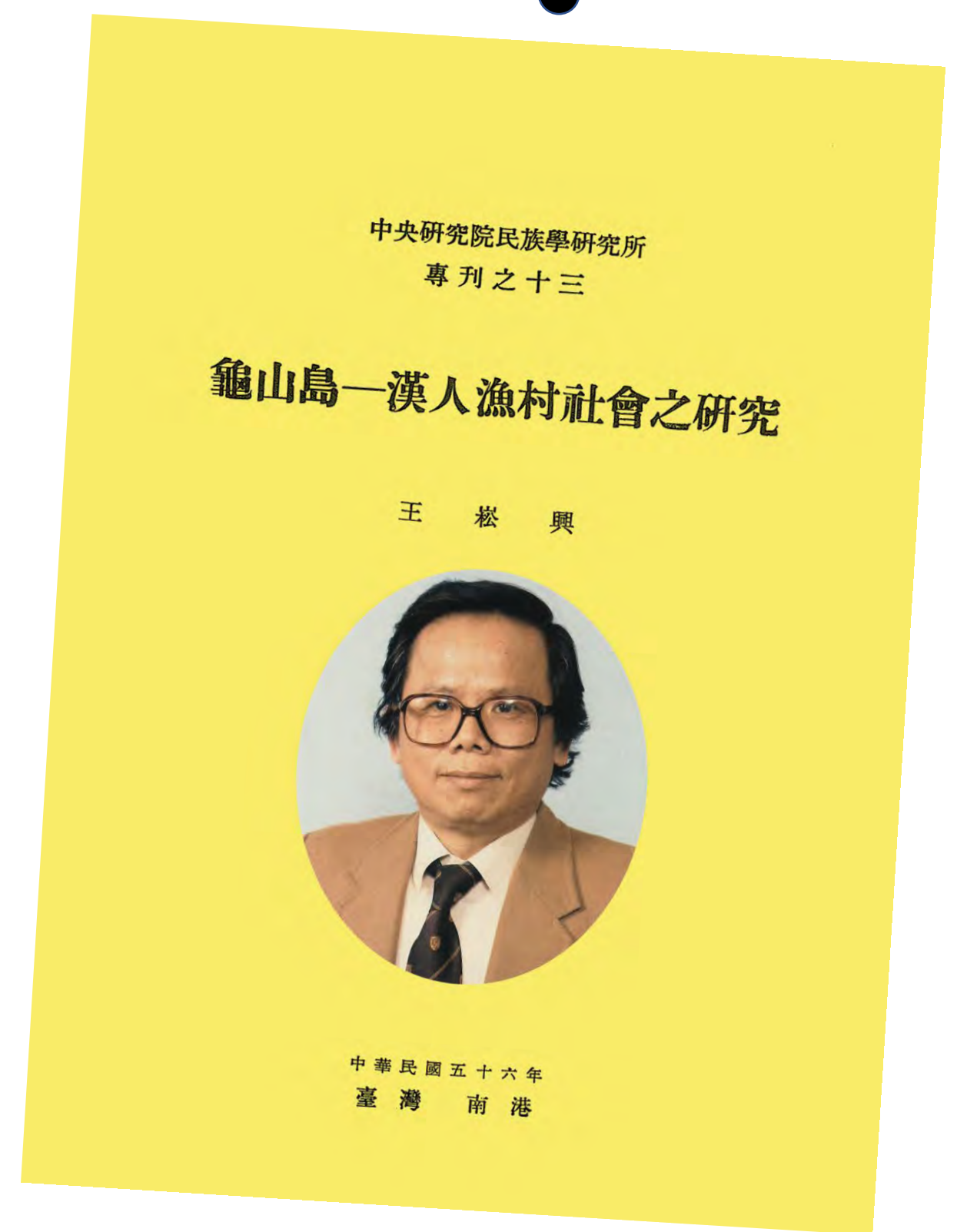
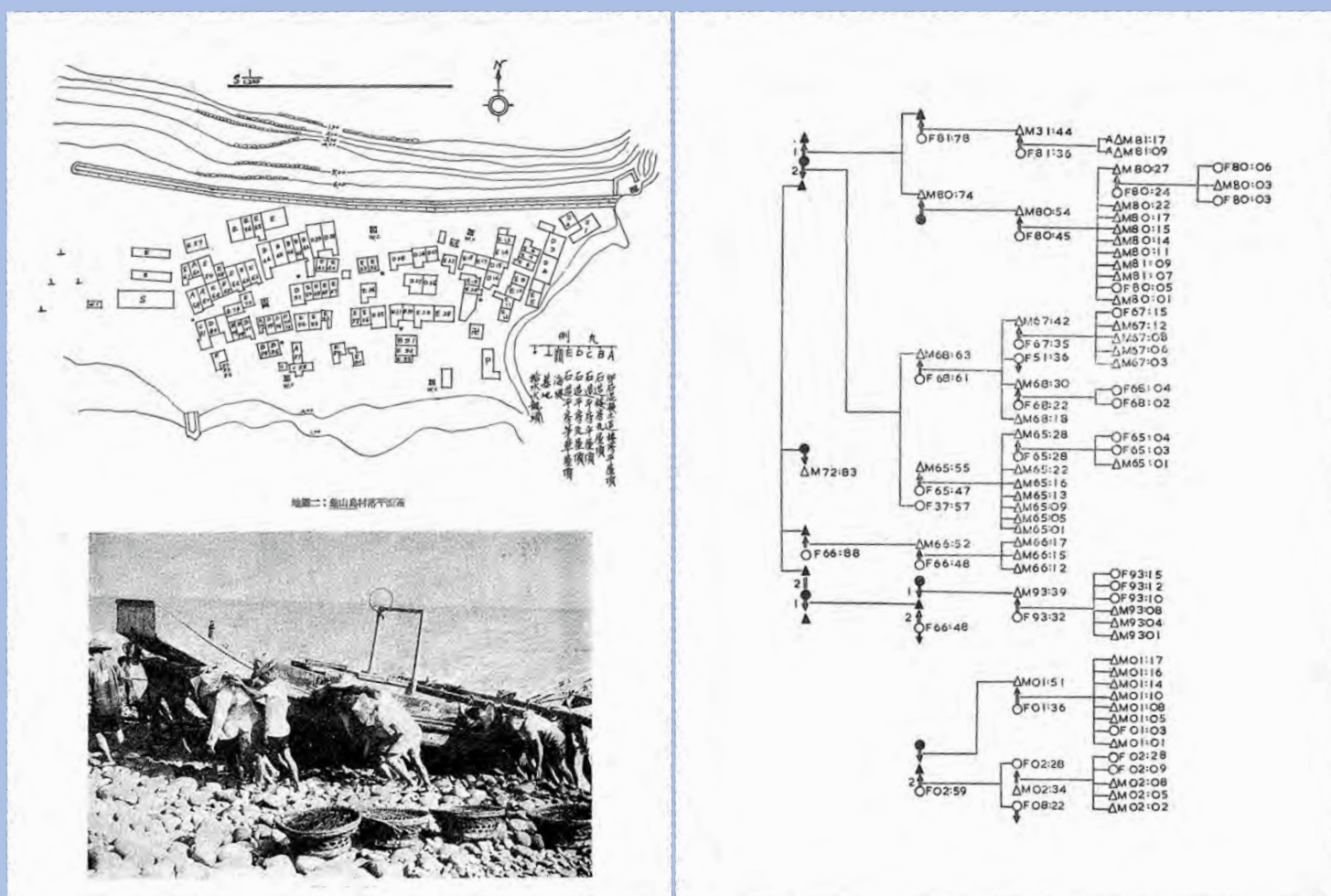


 第一部『亀山島』を読む

- 10:05 川瀬 由高（江戸川大学） 「趣旨説明：あらためて『亀山島』を読むために」
- 10:10 呉 松旆（関西学院大学） 「台湾の人類学と「自文化」研究」
- 10:20 稲澤 努（尚絅学院大学） 「亀山島と「漢人らしさ」研究」
- 10:30 藤川 美代子（南山大学） 「女性の仕事と島の外に広がる世界」
- 10:40 長沼 さやか（静岡大学） 「複雑で名づけすら困難な人間関係」
- 10:50 川瀬 由高 「『亀山島』と「関係あり、組織なし」」
- (休憩)

 第二部 コメント

- 11:15 太田 出（京都大学）
- 11:30 長津 一史（東洋大学）
- 11:45 上水流 久彦（県立広島大学）
- 12:00 リプライ&質疑応答



趣旨

2024年5月、『王崧興『亀山島』と漢人社会研究(仮)』を風響社から刊行します。本書は、台湾・香港・日本で教鞭をとられた王崧興先生の名著『亀山島』(中央研究院民族学研究所、1967年)の全訳に加え、その解題論文を収録した編訳書です。『亀山島』は台湾東北部の外海に位置する亀山島の、島内につしかなない小さな漁村を舞台とした人類学的な調査の報告書であり、歴史・漁具・漁法などについて詳細に描かれるほか、漁村ならではの漁船経営のあり方、家族・親族を含む社会関係のあり方、祭祀の方法などが論じられています。また、この書は、専門的な訓練を受けた台湾本土出身の人類学者が初めて、自らと同じ漢人に属するコミュニティについて描いた民族誌であり、台湾の人類学史においても重要な位置を占めるものです。今回の編訳に取り組んだのは、中国大陸を対象としてきた研究者と、アイヌ社会を対象としてきた台湾出身の研究者であり、本書の全訳および解題論文は、非台湾研究者による『亀山島』読解の試みだと言えます。その意味で本書は、研究テーマと研究地域の細分化の結果として生じていた研究領域の境界を横断する試みであると同時に、また現代的関心から古典を捉えなおすことで、東アジアの人類学的研究の活性化に寄与することを目指したものです。そこで、本書の翻訳と解題論文を執筆した5名の研究者が『亀山島』から何を読み取ろうとしたのかを論じるとともに、3名の先生方をコメントーターに招き、『亀山島』の広がりや奥行き、そして古典的民族誌再読の意義について討論するシンポジウムを開催します。

お問い合わせ先：  南山大学人類学研究所
Anthropological Institute, Nanzan University

■ Phone : 052-832-3111(代表)
■ Email : ai-nu@ic.nanzan-u.ac.jp
■ HP : <http://rci.nanzan-u.ac.jp/jinruiken/>
■ Facebook : 「人類学研究所」で検索 ■ X: @jinruiken

